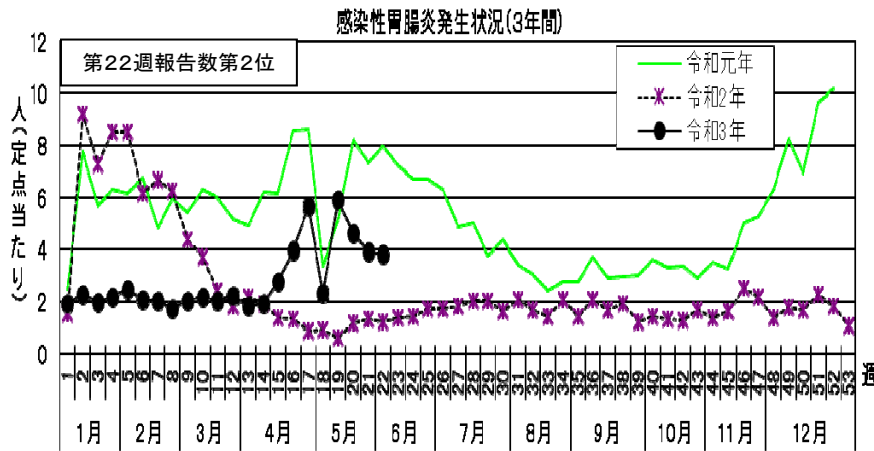
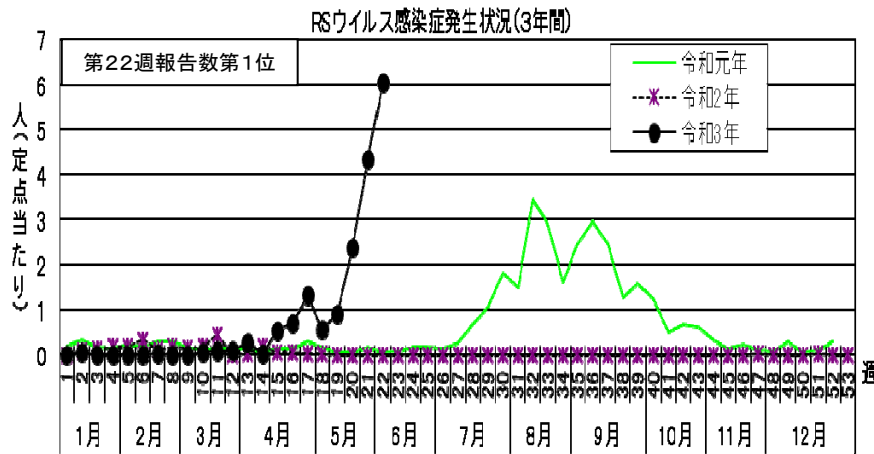


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年5月31日（月）～令和3年6月6日（日）〔令和3年第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)RSウイルス感染症 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は6.06人と前週（4.34人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.83人と前週（3.91人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.54人と前週（0.46人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



～腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加しています～

腸管出血性大腸菌感染症は、例年6月以降に報告数の増加がみられますが、今年は全国的に5月中旬から増加し、川崎市においても第22週（5月31日～6月6日）までに、すでに10件の報告がありました。腸管出血性大腸菌は感染力が非常に強く、気温や湿度の上昇に伴い増殖が活発になるため、これからの季節は食材の下処理や加熱だけでなく、食品の保存にも注意が必要です。
腸管出血性大腸菌感染症は、菌に汚染された食品の摂取による感染だけでなく、患者の便等に汚染された手や物を介した二次感染も起こります。今一度、食事前や排便後などの手洗いや消毒などの感染対策を見直しましょう。

腸管出血性大腸菌感染症とは？

【主な症状】

- ・ 激しい腹痛、頻回の水様性下痢
- ・ 著しい血便等



【合併症】

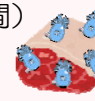
- ・ 溶血性尿毒症症候群（HUS）、脳症

【潜伏期間】

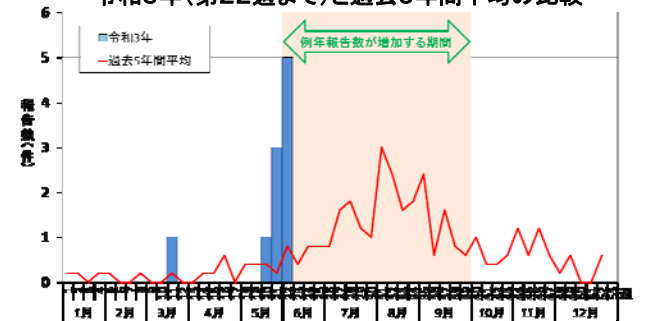
- ・ 1～14日間（平均3～5日間）

【予防対策】

- ・ 生野菜などの流水洗浄
- ・ 食肉の十分な加熱（75℃で1分以上）
- ・ 食事前や排便後の手洗い、消毒



川崎市における腸管出血性大腸菌感染症の発生状況
-令和3年(第22週まで)と過去5年間平均の比較-



※小児や高齢者は合併症を起しやすいため、激しい症状がある場合には直ちに医療機関を受診してください。